

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691200020		
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会		
事業所名	グループホーム 希		
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994番地		
自己評価作成日	平成23年10月	評価結果市町村受理日	H23年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成23年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の家庭菜園を活用し、無農薬野菜を育てて献立に加えている。壁面の飾りつけを工夫するなどして、外出困難な方にも季節を感じていただいている。職員は、利用者に何事も強要することなく、ゆったりと自分のペースで生活することができるよう支援している。利用者一人ひとりが、役割を担うことによる充実感をもつことができるよう支援している。利用者は、ちぎり作業等を行っており、その収益を利用者へのプレゼント代に充てている。事業所は、地域の祭りや清掃作業へ積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな場所にあり、広々とした空間で利用者と職員がともにゆったりと和やかに生活している。共通スペースや居室においては、生活感や季節感を取り入れた写真や手芸品を飾りつけ、居心地良く過ごせるよう配慮している。職員は、年に1度法人内での事例発表会に参加して学び、意欲やサービスの質の向上へと繋げている。また、防災訓練においては、積極的に防火用散水栓を使用した訓練を行い、緊急時に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所としての社会的役割を確認してグループホーム独自の理念を明確に掲げている。職員は理念を共有し日頃の支援に反映している。	ミーティング時に理念を唱和し、全職員で共有するよう努めている。また、理念に基づく具体的なケアについてつねに話しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所の子どもの来訪があり、交流を図っている。また、地元の小学生の課外授業や定期的に老人会が慰問等に来てくれている。	地域の小学生とともに田植えや稲刈り、ビオトープの観察等を行って交流を図っている。保育所の子どもや民生委員の来訪があり、お遊戯や歌、手品等を披露してもらっている。地域の清掃活動には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と職員により、地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者のサービス状況や現状等を報告し次回に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、町担当職員、民生委員等の参加がある。事業所の現況報告を行い、質問や要望、意見を出してもらうことで、サービスの質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから、町担当者に相談をしている。助言が得られるような関係づくりに努めている。	日ごろから、町担当者に様々な相談を行っており、良い関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の転倒や転落等のリスクに対し、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は、安全上のためやむを得ず暗証番号式のロックにて安全を確保している。	玄関は施錠しているが、散歩等の外出時には職員が付きそって対応している。徘徊や帰宅願望がある利用者には、行動や表情、言葉等に留意し、変化に応じた支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間があるかぎり話し合いを重ねている。些細なことでも口に出して話し合い、相互にストレスをためないようにしている。虐待防止に関する講座に参加している。また、各種文献を活用し学習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者の方で成年後見制度の活用が必要な方はいないが、各種資料を参考に制度の仕組みや手続き方法を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって、相手が理解や納得をえられるよう説明している。重要事項説明書の説明や苦情解決、個人情報の取り扱いに関する同意、看取り方針、身体拘束等についても、相手が分かりやすいよう詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等により、気のついたことなどを出していただいている。また、年4回、“希だより”を発行したり、年2回の家族会の開催に向け取り組んでいる。急を要するときは電話等を活用している。	家族会で出された意見や要望について職員間で話しあい検討している。また、家族の来訪時には、コミュニケーションをとるよう努め、積極的に意見聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気安く話すことができるよう努めている。カンファレンス時に十分な時間を設け、何でも話せる環境づくりに取り組んでいる。	月1回、職員会議を開催している。また、日ごろの会話から職員の意見を把握している。代表者や管理者は、職員の意見を運営に取り入れるよう努めており、職員より出された勤務体制に関する意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し、自信を持って取り組んでもらうことで、各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に、接遇・マナー研修を受講している。スキルアップのために段階に応じた研修を受講しており、受講後は研修内容に関する報告会を実施し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会へ参加している。他事業所の職員と顔なじみになり、相互に交流できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で、本人が何を望んでいるかじっくり聞きとるよう心がけている。意思疎通の困難な方には、家族担当のケアマネジャーより、過去の生活状況や性格、趣味等を聞き、それに基づいて利用後の処遇方法に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホームの利用希望に至るまでの経緯について聞くよう心がけている。家族との信頼関係の構築に向け、何でも気軽に話すことができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を促すのではなく、まずは本人や家族の要望・状況等を把握するよう努めている。必要に応じ、ケアマネジャーや地域包括支援センターと協議し、様々な角度から支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居を促すのではなく、まずは本人や家族の要望・状況等を把握したうえで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの生活のなかで、日常会話を重視した交流に努めることで価値観を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた馴染みの関係を大切にさせていただくため、友人や知人の面会をお願いしている。自由な面会の受け入れや文書発送等を積極的に行っている。	利用者の馴染みの美容院に行っている。また、友人の来訪もあり、馴染みの関係を大切に支援している。家族の協力を得たうえで、お墓参り等の外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、なるべく居室に閉じこもらないように促している。利用者同士が、ホール等で互いに顔をあわせて食事や会話を楽しむことのできる環境づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者へ、電話をかけた後、訪問したりしている。その後の健康状態や生活状況等を聞き、要望があれば相談にのっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に、なるべく意向に応じた暮らしができるよう配慮している。意思疎通が困難な方には、本人の立場や家族の意向を踏まえて考え、より良い暮らしができるよう配慮している。	声かけを多く行って本人の意向の把握や確認を行っている。また、利用者が表出することの困難な思いなどは、日ごろの行動や表情等から汲みとるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、家族やケアマネジャー等にていねいに聞き取りを行っている。入居後も、本人や家族等から、利用者の過去の状況について聞くようにしており、詳細な生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの身体状況や認知度の状況を把握し、のびのびと生活することができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等の情報をもとに、より良い介護計画となるよう努めている。	日ごろから、本人の思いや意見を聞くよう努めている。家族には、面会時に思いや意見を聞いている。職員の意見や気づき、アイデアを集約し介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの生活の様子や気づき等を個人ファイルに記入している。申し送り時などに情報を共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ、美容院や外出、通院、送迎等の支援を柔軟に行っている。利用者一人ひとりの満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防訓練を実施している。また、支援センターのソーシャルワーカーや訪問看護師等と連携を図って支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時の対応が可能な協力医療機関がある。	基本的に、かかりつけ医や必要な診療科の受診は職員が支援している。受診後、家族に電話で連絡し、情報を共有できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の協力のもと、健康管理や医療の受診に関する支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に協力医療機関を受診している。看護師との情報交換に留意したうえでサービスの質の向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアには限界があるため、入居時にその旨を家族に説明している。家族に希望を聞き、なるべく希望にそえるよう努めている。	入居の段階で、重度化した場合や終末期に関する話し合いを行っている。事業所が対応できるケアについて十分に説明を行っている。看取りの経験もあり、本人や家族の要望に応じることができる体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が中心となって、事業所のマニュアルや過去の事例をもとに定期的なカンファレンスやロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、災害時の対応策を学習している。また、地元の消防団や隣接する関連事業所への救助要請をできるようにしている。	年2回、避難訓練を実施している。日中と夜間を想定した通報や避難、消火用散水栓を使った消火訓練等を行っている。事業所の立地条件等に応じて想定される災害について、運営推進会議等で議題に取りあげ話している。備蓄品は併設事業書に用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には配慮している。特に、本人の主張することを拒否することなく傾聴し、受容するよう心がけている。	利用者一人ひとりの人格を大切に考えて、日ごろのケアに取り組んでいる。家族から声かけについて意見があった際には、すぐにミーティングで話しあうなど、迅速な対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人ひとりの意見や希望を重視し大切にしている。また、訴えの少ない方には選択肢を設けるなどの対応を行って意思の表出に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースにあわせて見守ることが必要と考え、職員が手を出しすぎないよう心がけている。できていないことや間違っていることは、後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員とともに馴染みの美容院に出かけ、パーマなどのおしゃれを楽しんでもらっている。季節や体温等に応じた見だしなみを行っている。体調面にも配慮し、快適に暮らせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽の流れる和やかな雰囲気の中、利用者一人ひとりが自分のペースで食事を楽しむことができるよう十分な時間を設けている。	毎日の食事は併設事業所で調理している。ときには菜園で採れた野菜を調理したり、おやつを作ったりして、和やかな時間を過ごしている。利用者の力量に応じて後片づけなどの役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立をもとに調理しているため、栄養のバランスがとれている。毎食後、水分摂取量のチェックを行って、定期的にお茶の時間を設け水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど、食後や就寝前の口腔内の衛生に努めているが、拒まれ方への対応に苦慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のプライドを傷つけることのないよう排泄時の誘導や介助に留意している。排泄記録を活用しなるべく失敗しないよう支援している。	トイレでの排泄を大切に考え支援している。排泄の自立に向け支援している。排泄のチェックを行い、利用者一人ひとりの状態に応じたトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。排泄状態に応じて食事形態に留意するなど柔軟に対応している。また、便秘時には、歩行訓練や体操、繊維の多い食材を摂取するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ、不安や羞恥心に配慮し時間をかけて行っている。しかし、本人が希望したときでも、健康上の問題があるときなどは遠慮してもらうこともある。	利用者一人ひとりの習慣や好みにあわせて、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団や枕等を使用してもらい、馴染みのある環境づくりに努めている。夜間、安心して眠ることができるよう、日中の活動を促して生活リズムを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、処方薬の説明書を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野で役割を担ってもらっている。洗濯ほしや洗濯たたみ、家庭菜園等、それぞれの持てる力を発揮することで楽しんで行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時などは近くのビオトープに出かけ、自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。また、家族とともに外出や外食等に出かけられるような場面や機会を設けている。	近隣を散歩したり、玄関先に出たりして、戸外へ出る機会を設けている。特別な外出として、お花見や公園、お寺、喫茶店等へも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日ごろの金銭管理は本人の能力にあわせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、随時電話や手紙を出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内に、四季折々の作品や花等を飾って、自宅にいるという空間づくりに努めている。	ホールや廊下に、写真や手芸品等を飾っており、家庭的な雰囲気をつくっている。仲の良い利用者同士がくつろげるようソファを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がゆっくりと会話を楽しむことができるようにソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは、火気を除いて自由としている。自宅で使用していた品物に囲まれた生活ができるよう支援している。また、ベッドや筆筒も本人が使いやすい配置にしている。	利用者は、居室に写真や椅子、テレビ、筆筒、馴染みの小物等を持ち込んでいる。広くゆったりとした空間となっており、落ち着いて生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることはなるべく自分で行っていただくよう努めている。また、転倒の危険性を低くし安全で自由に歩行できるよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所としての社会的役割を認識してグループホーム独自の理念を明確に掲げている。職員は理念を共有し、日ごろの支援に反映している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所の子供達の来訪があり、交流を図っている。また、地元の小学生の課外授業や定期的に老人会が慰問等に来てくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と職員により、地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者のサービス状況や現状等を報告し次回に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから、町担当者に相談をしている。助言が得られるような関係づくりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の転倒や転落等のリスクに対し、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は、安全上のためやむを得ず暗証番号式のロックにて安全を確保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間があるかぎり話し合いを重ねている。些細なことでも口に出して話し合い、相互にストレスをためないようにしている。虐待防止に関する講座に参加している。また、各種文献を活用し学習している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者の方で成年後見制度の活用が必要な方はいないが、各種資料を参考に制度の仕組みや手続き方法等を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって、相手が理解や納得をえられるよう説明している。重要事項説明書の説明や苦情解決、個人情報の取り扱いに関する同意、看取り方針、身体拘束等についても、相手が分かりやすいよう詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等により、気のついたことなどを出していただいている。また、年4回、“希だより”を発行したり、年2回の家族会の開催に向け取り組んでいる。急を要するときは電話等を活用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気安く話することができるよう努めている。カンファレンス時に十分な時間を設け、何でも話せる環境づくりに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し、自信を持って取り組んでもらうことで、各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に、接遇・マナー研修を受講している。スキルアップのために段階に応じた研修を受講しており、受講後は研修内容に関する報告会を実施し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会へ参加している。他事業所の職員と顔なじみになり、相互に交流できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	希2 実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で、本人が何を望んでいるかじっくり聞きとるよう心がけている。意思疎通の困難な方には、家族担当のケアマネジャーより、過去の生活状況や性格、趣味等を聞き、それに基づいて利用後の処遇方法に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホームの利用希望に至るまでの経緯について聞くよう心がけている。家族との信頼関係の構築に向け、何でも気軽に話すことができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を促すのではなく、まずは本人や家族の要望・状況等を把握するよう努めている。必要に応じ、ケアマネジャーや地域包括支援センターと協議し、様々な角度から支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居を促すのではなく、まずは本人や家族の要望・状況等を把握したうえで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの生活のなかで、日常会話を重視した交流に努めることで価値観を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた馴染みの関係を大切にしていたため、友人や知人の面会をお願いしている。自由な面会の受け入れや文書発送等を積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、なるべく居室に閉じこもらないように促している。利用者同士が、ホール等で互いに顔をあわせて食事や会話を楽しむことのできる環境づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者にも、電話をかけた後、訪問したりしている。その後の健康状態や生活状況等を聞き、要望があれば相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に、なるべく意向に応じた暮らしができるよう配慮している。意思疎通が困難な方には、本人の立場や家族の意向を踏まえて考え、より良い暮らしができるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、家族やケアマネジャー等に丁寧に聞き取りを行っている。入居後も、本人や家族等から、利用者の過去の状況について聞くようにしており、詳細な生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの身体状況や認知度の状況を把握し、のびのびと生活することができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等の情報をもとに、より良い介護計画となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの生活の様子や気づき等を個人ファイルに記入している。申し送り時などに情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ、美容院や外出、通院、送迎等の支援を柔軟に行っている。利用者一人ひとりの満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防訓練を実施している。また、支援センターのソーシャルワーカーや訪問看護師等と連携を図って支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時の対応が可能な協力医療機関がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の協力のもと、健康管理や医療の受診に関する支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に協力医療機関を受診している。看護師との情報交換に留意したうえでサービスの質の向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアには限界があるため、入居時にその旨を家族に説明している。家族に希望を聞き、なるべく希望にそえるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が中心となって、事業所のマニュアルや過去の事例をもとに定期的なカンファレンスやロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、災害時の対応策を学習している。また、地元の消防団や隣接する関連事業所への救助要請をできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	希2 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には配慮している。特に、本人の主張することを拒否することなく傾聴し、受容するよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人ひとりの意見や希望を重視大切にしている。また、訴えの少ない方には選択肢を設けるなどの対応を行って意思の表出に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースにあわせて見守ることが必要と考え、職員が手を出しすぎないよう心がけている。できていないことや間違っていることは、後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員とともに馴染みの美容室に出かけ、パーマなどのおしゃれを楽しんでもらっている。季節や気温等に応じた身だしなみを行っている。体調面にも配慮し、快適に暮らせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽の流れる和やかな雰囲気の中、利用者一人ひとりが自分のペースで食事を楽しむことができるよう十分な時間を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立をもとに調理しているため、栄養のバランスがとれている。毎食後、水分摂取量のチェックを行って、定期的にお茶の時間を設け水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど、食後や就寝前の口腔内の衛生に努めているが、拒まれる方への対応に苦慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のプライドを傷つけないよう排泄時の誘導や介助に留意している。排泄記録を活用しなるべく失敗しないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。排泄状態に応じて食事形態に留意するなど柔軟に対応している。また、便秘時には、歩行訓練や体操、繊維の多い食材を摂取するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ、不安や羞恥心に配慮し時間をかけて行っている。しかし、本人が希望したときでも、健康上の問題があるときなどは遠慮してもらうこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団や枕等を使用してもらい、馴染みのある環境づくりに努めている。夜間、安心して眠ることができるよう、日中の活動を促して生活リズムを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、処方薬の説明書を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野で役割を担ってもらっている。洗濯ほしや洗濯たたみ、家庭菜園等、それぞれの持てる力を発揮することで楽しんで行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などは近くのピオトープに出かけ、自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。また、家族とともに外出や外食等に出かけられるような場面や機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日ごろの金銭管理は本人の能力にあわせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、随時電話や手紙を出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内に、四季折々の作品や花等を飾って、自宅にいるという空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がゆつくりと会話を楽しむことができるようにソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは、火気を除いて自由としている。自宅で使用していた品物に囲まれた生活ができるよう支援している。また、ベッドや筆筒も本人が使いやすい配置にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることはなるべく自分で行っていただくよう努めている。また、転倒の危険性を低くし安全で自由に歩行できるよう配慮している。		